令和8年度（冬）宮崎大学公開講座

「源　氏　物　語
～夢浮橋巻を読む～」

集　中　講　義　予　定

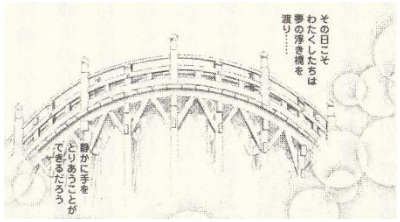
会場：錦本町ひなたキャンパス

「源　氏　物　語　～夢浮橋巻を読む～」　とは、

30年近くお話ししてきた源氏物語も遂に最終巻に辿り着きました。お疲れ様でした。

現在の高校の教科書にも、桐壺巻の冒頭はだいたい掲載されていますので、源氏物語が「いづれの御時にか～」で始まることを知っている方は多いと思いますが、最後がどう終わるのかは、専門家以外で知っている人はかなり少ないと思われ、誇って良いことかと思います。ただ、これだけは仕方ないということでネタバレしますが、実は最後は昔から、「本当にこれで終わりなのか？」と疑問が呈されるほど中途半端なものなのです。少し前までは、作者が死んでしまったからではないかという説まであったのですが、今でも紫式部伝の第一人者となっている故今井源衛博士により、紫式部も当時の平均寿命である50歳くらいまでの生存が確認できることが明らかとなったため、現在では陰が薄くなりました。ただ厳密にはその説が無くなったわけでもありません(幾つまで生きれば充分かは決められないから)が、もしそうでないのなら、何故こうなっているのでしょうか。それを皆さんにもお考えいただくのが今回のテーマです。難しい？心配ご無用。文学に「正解」はありませんので。

その手がかりとなるのは、「夢浮橋」という巻名なのですが、どんなものかは全く分かりません。唯一形象化されたものを右に挙げておきましたが、おそらくこれも違います。新古今和歌集で藤原定家が、「春の夜のゆめのうき橋とだえして峰にわかるる横雲のそら」と詠んだのが一番有名で、夢浮橋とはたぶん雲で出来たものと思われるのですが、何と何を結ぶのか？是非考えてみてください。



講師：宮崎大学名誉教授
博士（文学）　山田　利博

	期　日	内　容
第1回	令和9年3月13日（土） （10:30-12:00）	薫、横川に出向く
第2回	令和9年3月13日（土） （13:00-14:30）	僧都からの文
第3回	令和9年3月14日（日） （10:30-12:00）	薫からの文
第4回	令和9年3月14日（日） （13:00-14:30）	小君、空しく帰る

◆受講方法

１．12月１日(火)から募集を開始します。お電話、ＦＡＸ、Ｅ－ｍａｉｌにてお申込ください。

宮崎大学学び・学生支援機構共創人材育成課
受付時間：9：00～16：00（土日・祝日は除く）
電話：0985-58-7188　　ＦＡＸ：0985-58-7974
E-mail　：chiikijinzai@miyazaki-u.ac.jp

※申込時の情報は、公開講座に関する業務のみに利用され、その他の目的には利用されません。

２．受講申込（仮予約）がお済みの方は、銀行窓口で受講料を納入してください。

◆受 講 料：3,000円（全4回分・消費税込）
◆入金期日：申込日より１週間
◆振 込 先：宮崎銀行　清武支店　普通預金
口座番号：５７８６３
受 取 人：国立大学法人宮崎大学　　ダイ）ミヤザキダイガク
電話番号：０９８５－５８－７１２２

注）銀行窓口で受講料を納めた際は、振込金受取書を必ず受け取ってください。
領収書になりますので、大切に保管してください。

申込後、大学にて振込確認を行い、受講者名簿に登録させていただきます。これで、受講決定となります。

※受講料について

① 受講料は銀行振込となります。当日の現金払いはお受けできません。
② 銀行振込の際には、振込手数料が必要となります。受講者の負担となりますのでご了承ください。
③ 受講料は返還できませんのでご注意ください。